

■施設等利用券の利用実績について

1.概要

たいしのってこバス等の町が運営する施設等の利用料を支援する「施設等利用券」を町在住の方に配布。

対象期間：2024 年 11 月～2025 年 3 月

配布：1 人当たり 2,000 円（100 円×20 枚）

このうち、たいしのってこバスで利用された利用券について掲載する。

2.たいしのってこバスへの利用状況

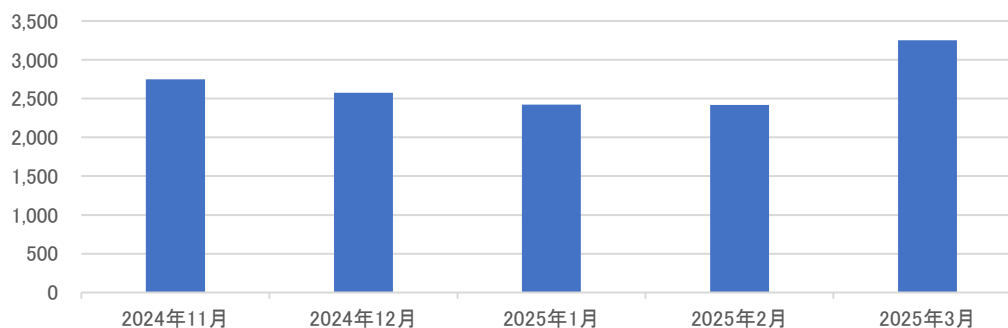
【利用券の利用状況】

- ・11 月～3 月の 5 ヶ月間で約 1 万 3 千回の利用があった。

月別利用回数※

	利用回数
2024年11月	2,750
2024年12月	2,576
2025年1月	2,424
2025年2月	2,416
2025年3月	3,250
合計	13,415

(回/月)



▲月別利用回数※

※施設利用券は 1 枚 100 円のため、便宜上大人運賃 200 円に合わせて 2 枚で 1 回の利用として集計している。

- ・平日・休日別の利用回数をみると、平日は約 1 万回、休日は約 3 千回となっている。
号車別では、1 号車が約 3 千回、2 号車が約 1 万回と、2 号車の利用が多くなっている。
- ・また、乗車実績あたりの利用券使用率については、平日・休日の別による差はあまり見られず、いずれも約 4 割の乗車が利用券によるものである。号車別に見ると、1 号車では約 3 割、2 号車では 4 割以上が利用券を使用しているという結果になっている。

施設利用券利用回数

	1号車	2号車	合計
平日	2,461	7,594	10,055
休日	779	2,582	3,360
合計	3,240	10,175	13,415

乗車実績

	1号車	2号車	合計
平日	7,775	16,642	24,417
休日	2,185	5,738	7,923
合計	9,960	22,380	32,340

利用回数/乗車実績

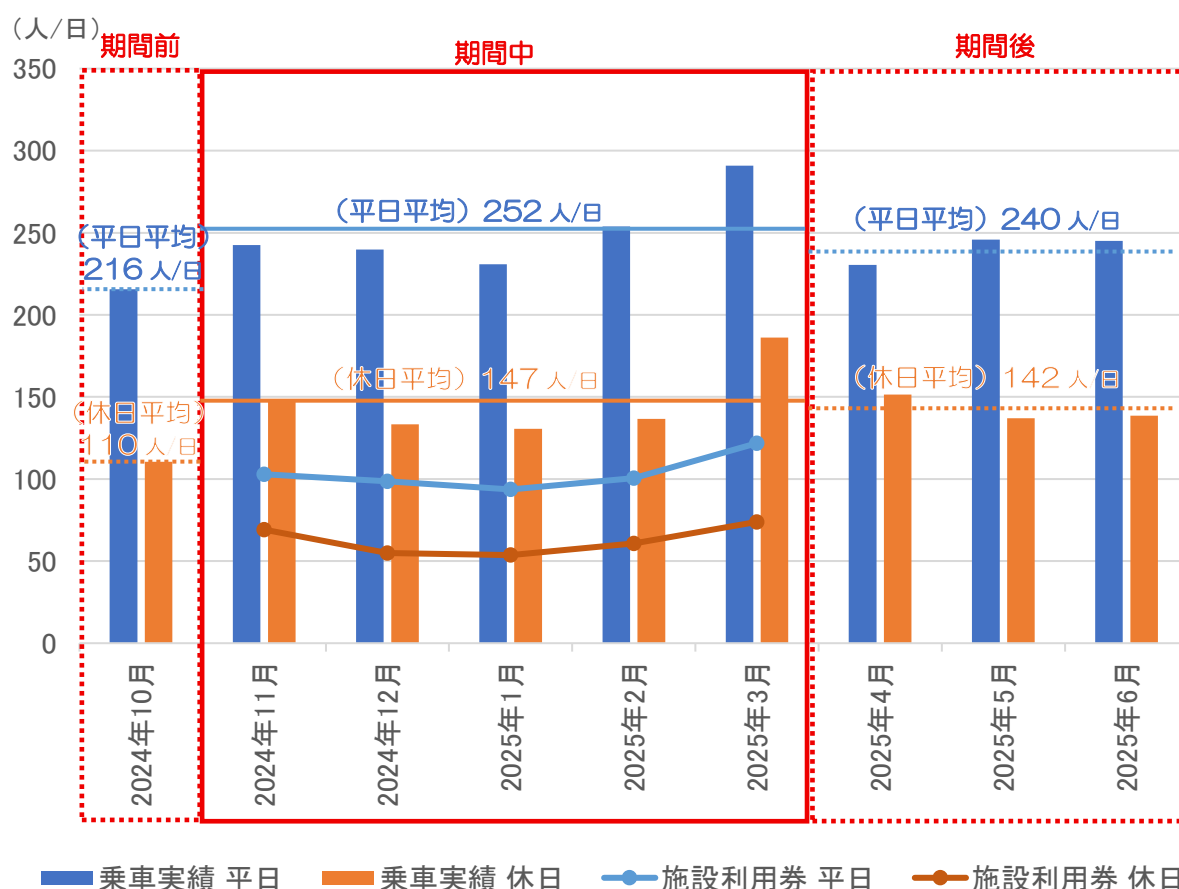
	1号車	2号車	合計
平日	32%	46%	 41%
休日	36%	45%	 42%
合計	 33%	 45%	41%

※1 号車：春日・畑線、総合福祉センター役場線、畑・山田役場線、太子・役場線
2 号車：太子中央循環線、上ノ太子駅町内周回線

【利用券とたいしのってこバスの乗車実績】

- ・期間中（11月～3月）の利用者数は、平日平均 252 人／日、休日平均 147 人／日となっており、期間前（10月）と比較すると、平日休日とも約 35 人／日程度多くなっている。
- ・また、期間後（4月～6月）は期間前（10月）と比較して、平日休日とも増加しており、利用券の利用促進効果があったことが考えられる。

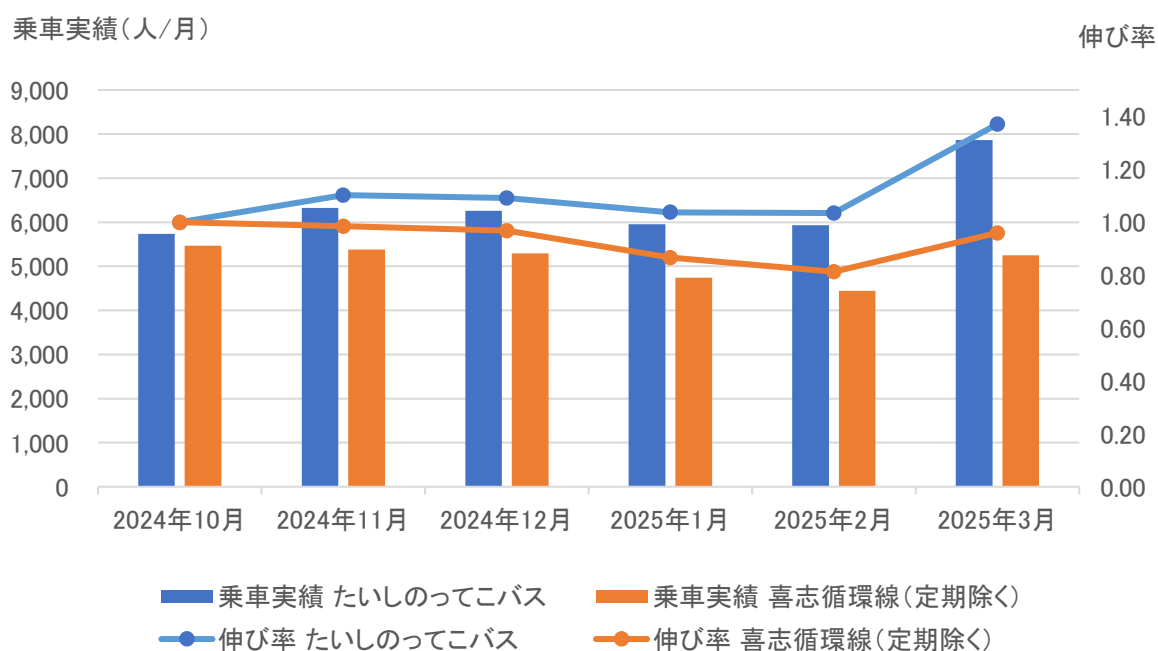
※令和 6 年 10 月より「たいしのってこバス」に自動カウントシステムを導入したことから、利用者数の水準をそろえるために、比較対象は 10 月以降としている。



▲月別平休別 日当たりの乗車実績と利用券利用状況

- ・金剛ふるさとバス喜志循環線（定期利用を除く一般利用）と、たいしのってこバスの乗車実績を比較すると、利用券期間前の10月を基準とした場合、11月以降の利用券期間中には「たいしのってこバス」の利用が増加している一方で、「喜志循環線」の利用は減少している。
- ・このことから、例えば従来は喜志循環線を利用して喜志駅を目的地としていた利用者の一部が、利用券の影響により「たいしのってこバス」に乗り換え、上ノ太子駅を目的地とするようになった可能性も考えられる。

※伸び率はいずれも10月の乗車実績を基準としている。



〇まとめ

施設等利用券の利用状況とたいしのってこバスの乗車実績を比較すると、利用券配布期間中は前後の期間と比べて乗車数が増加しており、日常的な利用者が運賃の代替として利用券を使用しているだけでなく、利用頻度の増加や新たな利用者につながっている可能性があることがわかった。また、利用券配布終了後も期間前と比べて乗車数が増加していることから、一定の利用促進効果があったと考えられる。

ただし、金剛ふるさとバス（喜志循環線）の利用者が減少していることから、町内における利用者の移動が生じた結果であり、単なる利用者の取り合いとなっている可能性もある。

たいしのってこバスに関しては、利用者数の増加に向けて、利用促進策が有効であることがわかったが、一方で、地域公共交通全体の視点に立てば、金剛ふるさとバスとの役割分担や整合性を踏まえた上で、どのような形で利用促進策を行うべきか、新たな検討・検証が必要である。